妊娠・出産・育児に関する情報

赤ちゃんのお世話のはじまり

赤ちゃんの毎日によりそえるのは、「親」になったことで味わえる何よりの幸せです。新しい命の誕生をよろこび、慈しみ、日々を楽しみながら赤ちゃんとの暮らしを営みましょう。産後はお母さんも疲れやすくなります。可能なときは横になって、体を休めましょう。

困ったことがあれば積極的に相談を



子育てを「夫婦だけ」「家族だけ」でしていくのは大変むずかしくなっているため、各自治体は、子育て世代を親身に支える仕組みの充実に努めています。困ったときや悩んだときは保健センター、保健所、子育て世代包括支援センターなどに相談してみましょう。

参考文献:「母子健康手帳　副読本」　公益財団法人　母子衛生研究会

○福島県内の相談窓口



福島県内の相談先の電話番号や、各自治体の子育て支援サービスなどを検索できます。

福島県の子育て応援ポータル すくすくひろば

福島県こども未来局
子育て支援課
TEL：024-521-8205
FAX：024-521-7747

○働きながら安心して妊娠・出産を迎えるために

・働く女性の心とからだの応援サイト



厚生労働省
応援サイト
ホームページ

・イクメンプロジェクト

育MEN イクメンプロジェクト

厚生労働省
イクメンサイト
ホームページ

○こども誰でも通園制度



動画はこちらから

全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するため、保育所等に通っていない０歳６か月～満3歳未満のお子さんを対象に、月一定時間（10時間）までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に保育所、幼稚園、認定こども園等を利用できる新たな通園制度です。

利用する場合、市町村への申請と認定が必要で、実施場所や利用時間は事業所によって異なりますので、詳しくはお住いの市町村にお問い合わせください。

「**こども誰でも通園制度について**」（こども家庭庁）
（https://www.cfa.go.jp/policies/hoiku/daredemo-tsuen）を加工して作成

放射線等に関する情報

○教えて！放射線と健康のこと

放射線と健康に関する心配や疑問にわかりやすくお答えするために、福島県医師会と協力して作成したチラシです。



公立大学法人福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
ホームページ

○暮らしの手引き・暮らしの手引き＋（プラス）

生活関連の放射線に関する疑問などをわかりやすくまとめた手引きです。



環境省ホームページ

○放射線による健康影響に関するポータルサイト

放射線による健康影響に関する情報を一元に整理したポータルサイトです。



環境省ホームページ

○「ふくしまの復興の今」を発信する福島県公式のポータルサイト

東日本大震災の被害や復興の状況について紹介しています。



福島県ホームページ

公立大学法人 福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター

令和８年９月発行

福島県のお母さん、お父さんへ

～「県民健康調査」妊産婦に関する調査の結果について～

（調査期間：平成23～令和４年度）

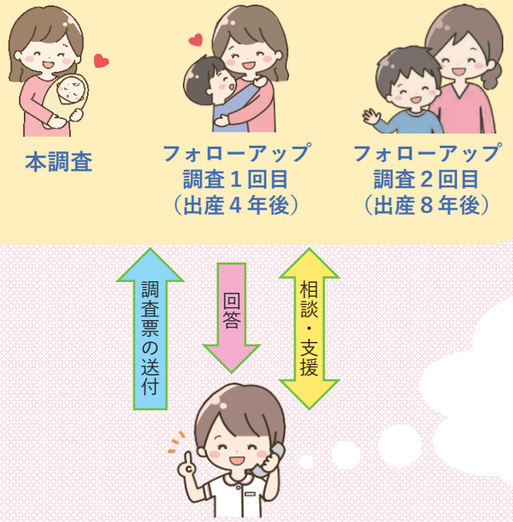
福島県と福島県立医科大学では、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故以降の福島県の妊産婦の皆さまのこころやからだの健康状態を把握し、不安の軽減や必要なケアを提供することを目的に、「県民健康調査」妊産婦に関する調査を実施してきました。平成23年度に調査を開始し、令和４年度までに延べ９万人の妊産婦の皆さまからご回答をいただき、１万２千人を超える方々をサポートしました。

これまでの調査からわかったことをリーフレットにしました。福島県内のお母さん、お父さんたちが安心して出産・子育てができるように、このリーフレットが少しでもお役に立てることを願っています。



調査の概要

調査は、妊娠届け出の約１年後に実施する「本調査」と、出産から４年後と８年後に実施する「フォローアップ調査」から構成されています。



本調査
平成23～令和２年度に福島県で妊娠・出産をした方に実施

フォローアップ調査
平成23～26年度の本調査に回答された方に平成27～令和４年度まで実施

ご回答いただいた内容から、支援が必要と思われる方には、助産師・保健師・看護師などからご連絡し、相談・支援を行いました。
また専用ダイヤルやメールによる相談も受け付けました。

妊娠・出産・育児の相談や調査に関するお問い合わせ

電話やメールを通して不安や悩みごとのご相談を受け付けています。保健師・看護師・公認心理師などが対応します。また、調査に関する問い合わせも受け付けています。以下の問い合わせ先までご連絡ください。

公立大学法人 福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター

妊産婦調査専用ダイヤル
024-549-5180
受付時間:9:00~17:00（土日・祝日を除く）

妊産婦調査専用メール
nimpu@fmu.ac.jp

妊産婦に関する調査について、詳しくはホームページをご覧ください。
https://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/

福島　妊産婦調査　検索

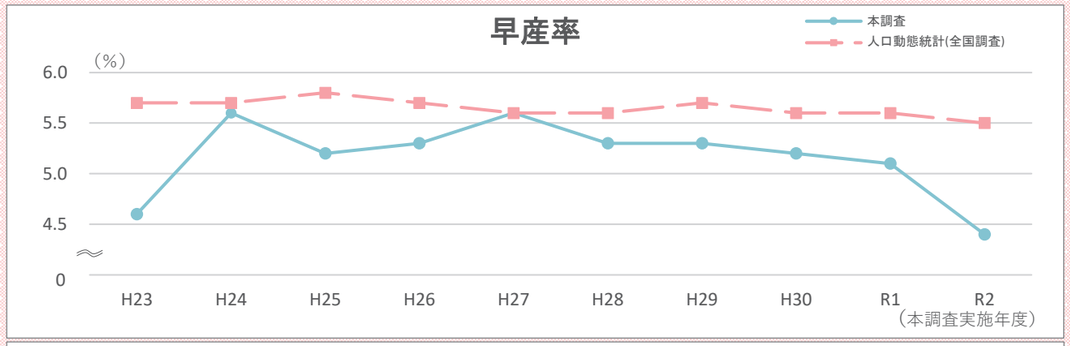
当センターの公式X（旧Twitter）アカウント（@FMU_FHMS）を開設しています。
県民健康調査から得られた知見や健康増進につながる情報等を発信しています。
https://x.com/FMU_FHMS

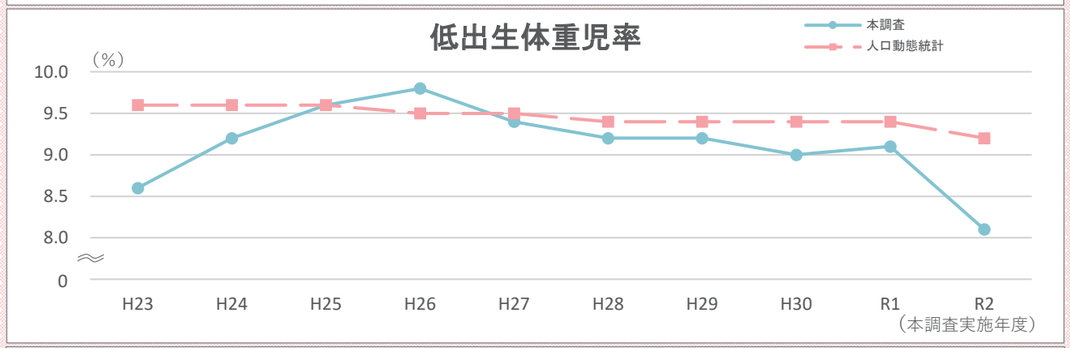
「妊産婦に関する調査」からわかったことをお伝えします

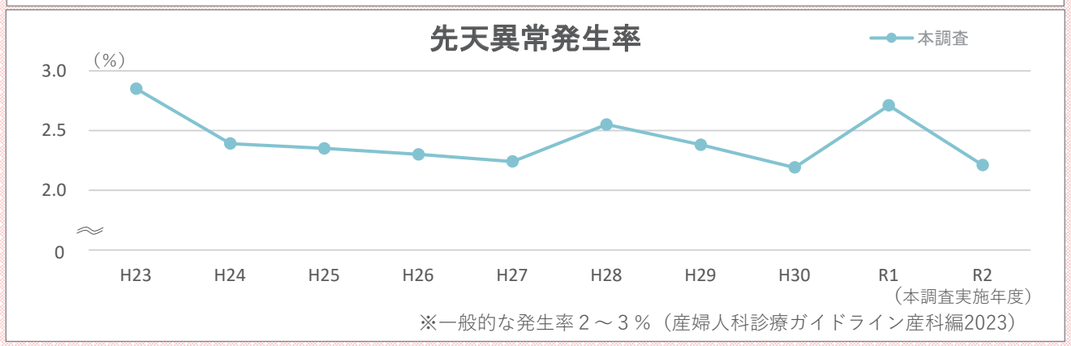
妊娠結果について（本調査）

平成23～令和２年度の早産率、低出生体重児率、先天異常※発生率は、調査方法が異なり単純な比較はできませんが、全国調査や一般的に報告されているデータと変わりありませんでした。令和２年度調査における各指標の値は、早産率が4.4%、低出生体重児率が8.1%、先天異常発生率は2.21%でした。

※先天異常について、調査及び報告時は「先天奇形・先天異常」を使用しましたが、日本医学会などでは「先天異常」を推奨していることから、このリーフレットでも同様に記載しています。集計内容に変更はありません。





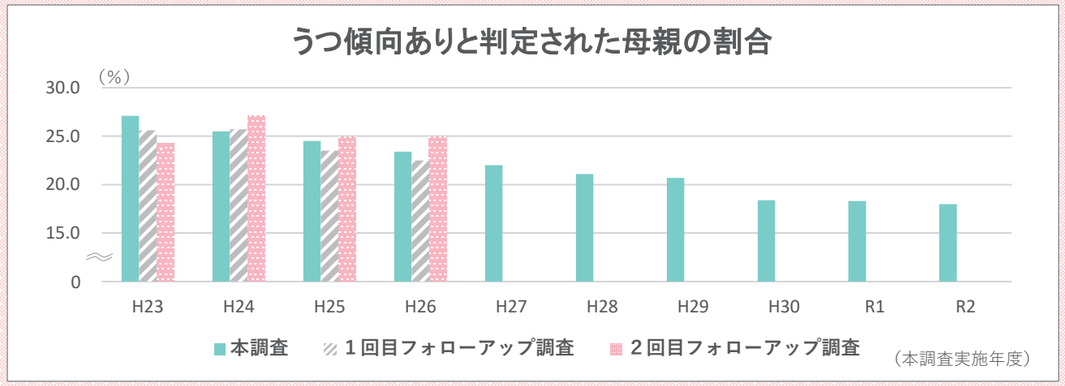


※一般的な発生率２～３％（産婦人科診療ガイドライン産科編2023）

母親のメンタルヘルスについて（本調査及びフォローアップ調査）

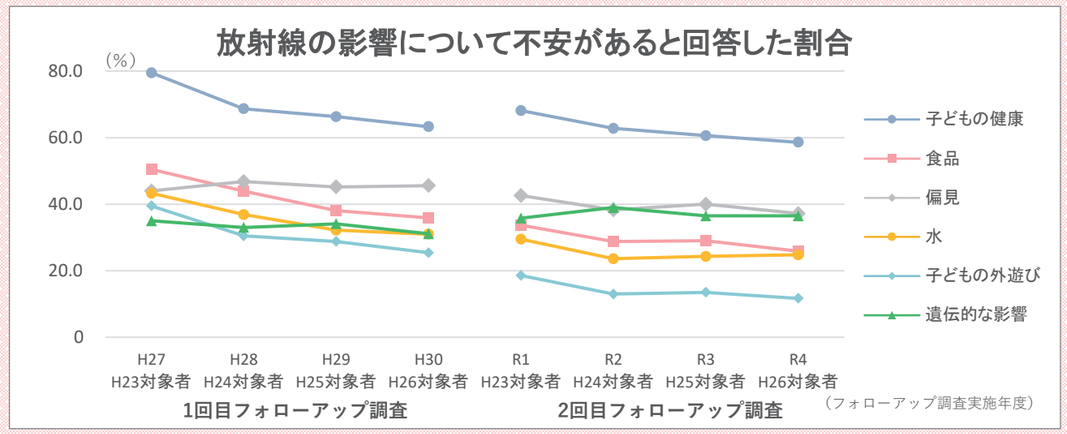
本調査の結果､「うつ傾向あり」と判定された母親の割合は、年々減少しました。令和２年度本調査で「うつ傾向あり」と判断された割合は18.0%でした。これは、全国で用いられているエジンバラ産後うつ病質問票による評価に換算すると10.0%に相当します。なお、平成29年度における全国の産後うつ病疑いの割合は9.8%であり、ほぼ同程度でした。

一方、2回目のフォローアップ調査では、「うつ傾向あり」と判定された割合がやや高くなっており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた可能性が考えられます。



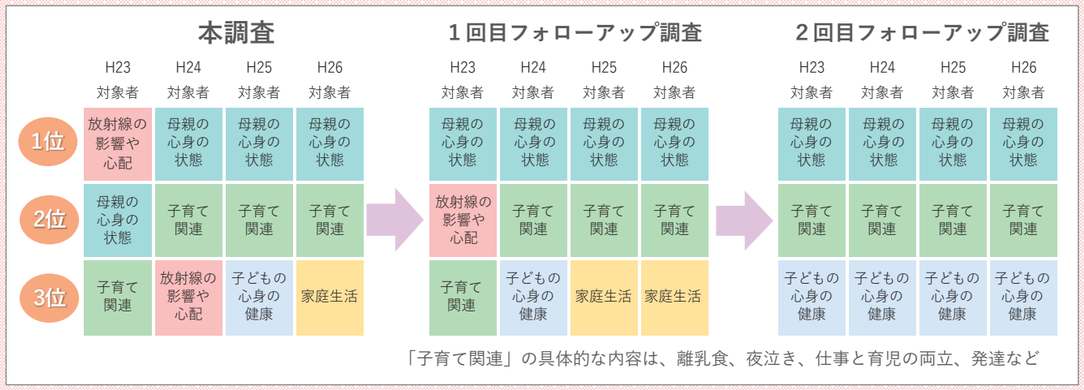
放射線の影響について不安なこと（フォローアップ調査）

「偏見」「遺伝的な影響」は横ばい傾向ですが､「子どもの健康」「食品」「水」「子どもの外遊び」に不安を感じる母親は少なくなりました。



電話相談の内容について（本調査及びフォローアップ調査）

「放射線の影響や心配」に関する相談が少なくなり､「母親の心身の状態」や「子育て関連」に関する相談が多くなりました。



「子育て関連」の具体的な内容は、離乳食、夜泣き、仕事と育児の両立、発達など

放射線被ばくの健康影響について

福島県の原発事故について、国際的な評価として国連の委員会であるUNSCEAR（アンスケア）から、2021年3月に2020年報告書が公表されました。

今回の報告書では、福島の原発事故による放射線被ばくの健康影響について、将来的な健康影響や妊婦・胎児への健康影響は見られそうにないとの発表がありました。

報告書の内容をわかりやすく説明したウェブサイトもありますので、以下のリンクよりご覧ください。

復興庁　放射線の健康影響に関する情報アップデート
https://www.reconstruction.go.jp/fukko-pr/2018/fukushimanoima/shiru/health-effects/

第８回 国際シンポジウム

2026（令和8）年3月12日開催

10年にわたる
妊産婦調査結果と
震災後4年間の
フォローアップ調査結果



YouTubeで配信中